



Palau Aquaculture Alliance

パラオ養殖組合



会長
ケネス・メレブ
秘書
オーマー・ファスティノ
広報担当
メルワート・メテウール

主な活動内容

- パラオ養殖業を統括
- 今後の養殖計画の検討
- 政府と地元業者の仲介
- 養殖業の改善について提案と分析
- 養殖の研究と開発
- 養殖に係る理解促進・啓発

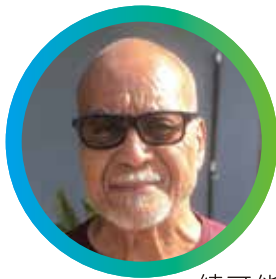
設立背景

パラオ養殖組合(PAA)は、パラオ養殖協同組合(PACA)を支援するため、NGOとして2020年11月にPAGAの姉妹組織として設立。

活動目的

パラオの養殖農家のビジネス展開と養殖産業の拡大を支援し、個別の養殖業者により多くの機会と安定を生み出す。

メンバーからの声 メルトワート・メテウール代表



私たちは、パラオ養殖協同組合と密に協力する新しい組織です。パラオの養殖産業に変化をもたらし、養殖業者がビジネスを展開するために必要な製品や材料をより容易に調達できるよう手助けしたいと考えています。現在の組合員数は40名を超えています。しかし、現状新型コロナウイルスの影響で国際便数が減少し、輸出入が制限されているため、農民への種苗配布が少なく、ほとんどの会員が十分に活動できていません。

パラオ養殖組合の使命は、ステークホルダーの能力構築と戦略的パートナーシップの促進を通して、持続可能な養殖産業の発展を唱えることです。パラオは水産養殖産業が盛んです。今日、養殖業は、食料安全保障を高め、パラオに持続可能な生計手段を提供し、私たちの生態系と伝統的な保全価値を回復し保護するのに役立つ、主要な産業となっています。

パラオの水産養殖の歴史は、1930年代に日本政府が研究施設を設立したことから始まり、第二次世界大戦後は、アメリカ平和部隊のボランティアが支援を引き継ぎました。しかし、それ以来、目立った発展はありません。そのため私たちが今後の発展を担いたいと考えています。私たちは、貝、魚、カニ、エビなどの養殖に従事しており、マグロ漁師へ生き餌の提供、ラビットフィッシュの稚魚の養魚場及びマングローブガニの養殖場の設立などの活動も実施しています。

現在まで行ってきたこれらの活動は、政府に大きく依存しているため、度重なる政権交代により、不安定になりがちです。将来的には、政権交代に影響を受けることなく、養殖業者自らが運営できるよう、養殖場だけでなく孵化場を設立することを目指しています。これにより、種苗の一貫した流れが可能になり、地元の農家がビジネスを成長させるための機会が提供され、ひいてはパラオの食料安全保障の向上につながると考えています。

私たちは、パラオの養殖業者が国内外でより多くの好機を得るための持続可能なシステムの構築が必要であると考えています。今後もさまざまな団体と連携し、養殖業の発展につなげていきたいと思ひます。

Contact Information

(680)-775-6627

(680)-775-4774

palauaquaculturealliance@gmail.com



www.facebook.com/Palau-Aquaculture-Alliance-PAA-105829368843465